

## 2. ナウマン象の全身復元骨格の見られる自然史系博物館

佐藤 喜男<sup>1)</sup>

つくば市周辺では多くのナウマン象の臼歯等の化石が見つかっています。関東地域では数カ所の自然史系の博物館で、このナウマン象の全身の復元骨格の展示が見られます。ナウマン象は約30万年～2万年前にすんでいた旧象の仲間です。復元のもととなった化石の保存状態や骨のそろい具合、復元を行った時期など研究の進展にもなってさまざまな復元が行われています。

全身骨格の復元が出来るような一頭分にあたるような化石の発見や大切な頭骨の発見は、(1)1966年；千葉県印旛郡印旛村瀬戸、(2)1969年；千葉県香取郡下総町荻山(頭骨だけ)、(3)1971年；北海道広尾郡虫類村字 晩成、(4)1976年；東京都中央区日本橋浜町の四つがあげられます。(1)、(3)では頭骨は発見されていません。

東京周辺でナウマン象の全身復元骨格の見られる博物館は千葉県立房総風土記の丘資料館・国立科学博物館・東京都高尾自然科学博物館・千葉県立中央博物館ですがこのうち国立科学博物館以外のものを紹介します。

千葉県立房総風土記の丘資料館：一番最初に復元された全身骨格(国立科学博物館の展示と同じ)で(1)と(2)の標本をもとに横浜国立大学の長谷川善和先生による復元で

す。肩までの高さは2.2m。化石の埋没状態を示す写真展示もしてあります(写真1)。

千葉県立中央博物館：長谷川善和先生による最新の全身骨格の復元で主に(1)と(2)の他に神奈川県藤沢市天寿院下の標本(高橋・野刈家(1980))を使った復元です。肩までの高さは2.2m以上で紹介した復元骨格の内一番大きいものです(写真2)。展示はこの房総の地学のコーナーの他、生物の分類(房総の化石)のコーナーにもナウマン象の下顎骨が展示されています。

東京都高尾自然科学博物館：(4)の骨格の非常に良く揃った標本を使った沢村寛先生(鶴見大学)・高橋啓一先生(日本歯科大学)による復元で、肩までの高さは1.9mで小型のメス象と考えられています(写真3)。この他、五日市町から発見された巨大なステゴドン象の骨の一部が展示されています。

千葉県立中央博物館と東京都高尾自然科学博物館では生態復元図が全身復元骨格のそばに展示してありますがナウマン象が南からやって来たのか、北からやって来たのか考え方によって大きく違ってきます。東京都高尾自然科学博物館の生態復元図はナウマン象は北からやって

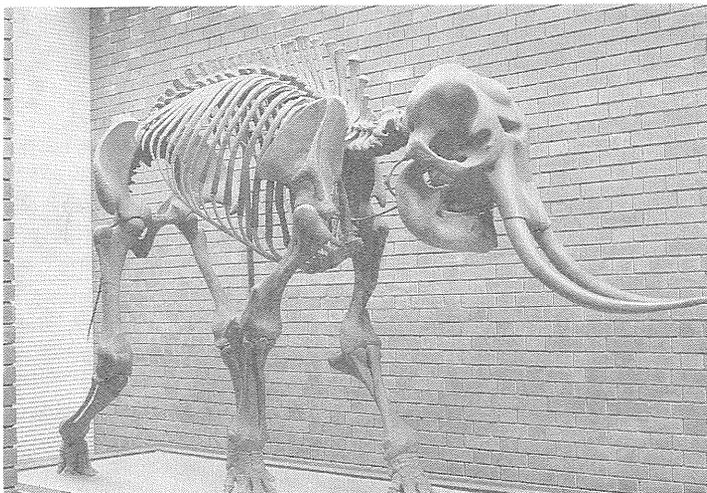


写真 1

千葉県立房総風土記の丘資料館のナウマン象  
全身復元骨格

1) SATO Yoshio, 地質調査所 地質標本館

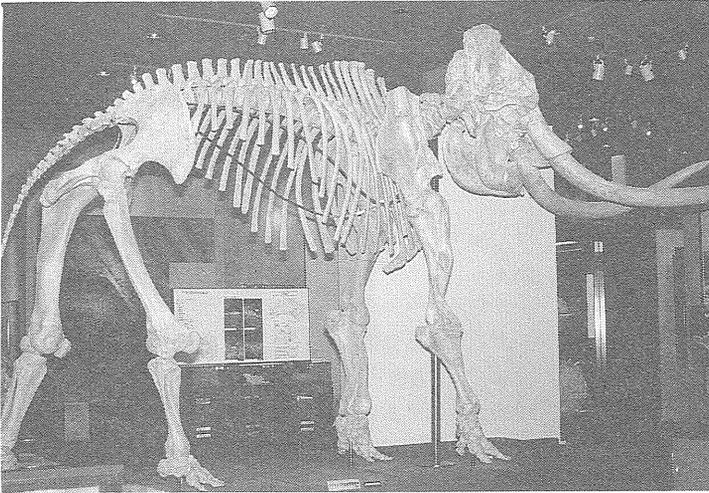


写真 2  
千葉県立中央博物館のナウマン象全身復元骨格

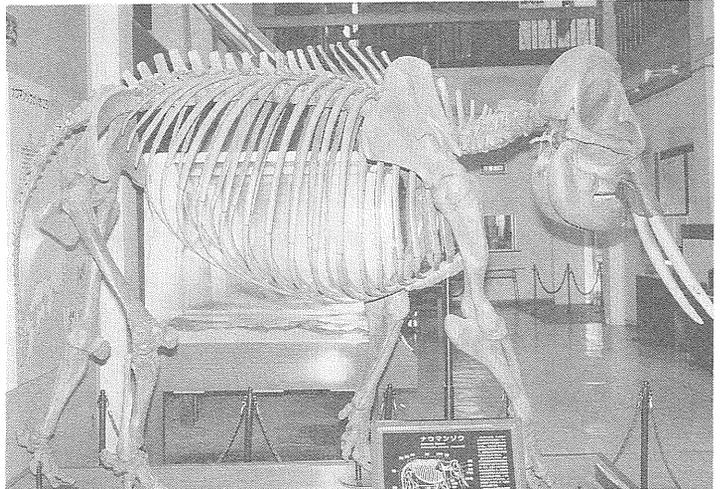


写真 3  
高尾自然科学博物館のナウマン象全身復元骨格

来たとして、ふさふさした長い毛を持っているように描かれています。

この他、(3)のナウマン象の全身復元骨格は北海道広尾郡忠類村のナウマン象記念館、札幌市の北海道開拓記念館に展示されています。

文 献

千葉県立中央博物館 (1990) 千葉県立中央博物館常設展示解説書。房総の地学, 千葉県立中央博物館, p. 19.  
北海道開拓記念館 (1971) ナウマン象化石発掘調査報告書, p. 82.  
井尻正二・犬塚則久 (1971) 絶滅した日本の巨獣。築地書館, p. 64-97.  
大森昌衛編 (1982) 東京の動・植物園と博物館, 化石 etc. めぐり。日曜の地学, 10. 築地書館, 10-21.

高橋啓一・野刈家宏 (1980) 藤沢市天岳院下より産出した脊椎動物化石 (予報). 地質学雑誌, 86, 7, 455-459.  
東京都高尾自然科学博物館 (1985) 東京でみつかったナウマンゾウ. 東京都高尾自然科学博物館, p. 6.

所在地・交通

千葉県立房総風土記の丘資料館：印旛郡栄町竜角寺 978, Tel. 0476-95-3126, 入館料—無料, JR 成田線安食駅よりバス, 風土記の丘下車, 徒歩 5 分, 月曜日休館。  
千葉県立中央博物館：千葉市青葉町 955-2, Tel. 0472-65-3111, 入館料—無料, JR 千葉駅から京成バス大学病院前行き, 中央博物館下車, 徒歩 5 分, 月曜日休館。  
東京都高尾自然科学博物館：八王子市高尾町 2436, Tel. 0426-61 入館料—無料, 京王高尾線高尾山口駅下車徒歩 5 分, 毎月第三月曜日休館。

<受付：1990年5月1日>  
地質ニュース 431号